
パラレルワールドつれづれ話

コムさん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パラレルワールドつれづれ話

【Nコード】

N4558M

【作者名】

コムさん

【あらすじ】

この話、言いかえて語りは作者と主人公が話したり、主人公がシリアスからコメディーまでこなしたり、筆力不足で両方は無理かもだったり、脱線したり、真面目にやったり、遊んだり、いろいろします。かの超大作、つれづれ草とは関係ないけどつれづれと書きつつって行きます。うん、こんな感じ

裏：始めの語り

さて、何の話か僕（作者）にもわからない

話になるかもわからない

そんな語り？をはじめましょう

「ふあゝ昨日はよく寝たね」

この自分で起きたのにあたかも誰かに起こしてもらった様な人（？）は

「これは口癖ね！」

……この、地の文に突っ込むダメな主人公は…何なんでしょうね？
まあ、僕の無軌道、整合性なしになりそうな語りの主人公をやっ
てくれるんだから大事にしましょう

「ファイアーボール」

神の視点に火の玉を打ちこみました。 っちー！！まゆげが燃えましたよ

「もっかい寝るね」

寝るな！！

「…いつまで続けるね？」

…うん。彼の名前は裏人^{りひと}といいます。つまり、裏の人ですね。表の方つまり、パラレルワールドの方のこの人は僕に突っ込みできません。

「つまり、他の我より上位なわけだね」

他の裏人がいなくなると存在の意味が消えて存在が消えちゃうわけですけど…。忘れがち上位の存在の方が下位の存在に支えられているものです。現実もそんな感じですよね？

「我は作者より下ね。いつも苦勞してるね」

この人は……はあ

僕は同位だと思っています

僕が書くから、この人が存在できる

この人がいるから語りができて語り部として僕が存在できる

「な、な…何ね。そ、そんなこと言って。きっと、とんでもない落ちをつけるつもりね」

あと、表のこの人は男：女Ⅱ5：5だったりします。男だったら可愛い感じ。女だったら活発でボーイッシュな感じです

「気付かなかったよ…よかったけど複雑だよ^{ボン}」

ん？何か言ったか？

「んにゃ？」

えーと…何か考えていらっしやったみたいです。でも大丈夫！僕ががんばります。

表のこの人の性格はバラバラです。周りの環境はもちろん、何気ない一言や偶然変な人を見かけるだけでも、少しは性格は変わってきますから

「作者はなぜ作者なのでしょうね」

キレがない??

あと表では、名前は変わりますが最後が（ね）になる癖があるのですぐわかると思います。

まあこんな感じですね？

「作者はあれですが次回はきつと表サイドにいくはずね。これからよろしくね」

あと、作者の小説の長さは「こん」「自虐なしね」「とにかく、これからよろしくおねがいます」

表：町の語り

さて、表編にはいりますよー

主人公は可愛い顔で寝てます。あ、でも男ですね。

「朝ですすよー。遅刻しちゃいますよー」

この、セミロングの髪を持つ親しげで可愛くて可愛い女の子は誰でしょう。妹か？それとも幼馴染とか？

「優^{ゆな}那ね。こんな朝早くに出張とか優那は早起きで暇な人ね」

「…暇じゃないですよ！真^{まこと}人が自分で起きたらもつとゆったり起床できるのに……ね」

幼馴染みたいです。それにしても責められてますね。いいき「だったら、俺なんか起こさず先いきゃいいじゃんね」な、な、なにいいってんの！？そりゃありがちだけど…ほんとうに来なくなああありますよ！

「早く、朝ご飯食べましょう。遅刻しちゃいますよ」

こうして、真人は朝ご飯を20秒で食べて幼馴染とダッシュで学校へ行きました。

門が閉まるギリギリに着きました。もう少しで、正義の風紀委員に怒られるところです

「おまえ、あと3分早く起きたら人生楽なものにな」

もう教室に来たみたいです。彼の名前は山本樹^{いつき}って言うのか。なぜ知ってるか？ノートに名前があるので

「ゼイゼイ…そうかもだね」

「授業始め」

これ先生です。その後、うとうとしつつも授業はちゃんと聞いて、休み時間は樹と駄弁ったりしました。

放課後へワープ!!

「また明日もね」

「じゃあなー」

真人と樹がコトコトと靴箱へ向かっていく

「今日も疲れたね英語ね」

「俺は体育と美術以外全部だな」

こんな他愛もない話をしていると

「真人たち遅いですよー」

「二人ともどうしたのよ？オーラがぼろ屑のようよ」

初登場で主人公をぼろ屑と言っているのは……誰でしょうね。優那の友達だろうか？見た目は青い髪を後ろで括ってポニーテールにしている。活発そうで、明るい表情と細いながらも全くの無駄なく薄らと筋肉がついた感じは…僕は陸上部と見た！！

「彩はテニスクラブに行かなくていいのか？」
あや

テニスでした。悔しくなんかないもん

「今日は休みだよ。ていうか、樹もクラブのメンバーじゃん」

「まあまあ、帰りながら話そうよ」

「それがいいね」

そんな感じで和やかに帰っていきます

「ちょっと、真人借りてくわ。すまん」

「「ああ、うん」」

和やかな放課後崩れました。なんでやねん！おあえはBLか？そうなのか

「真人……」

……

「優那が好きだろう」

「…嫌いじゃないね」

「人伝に聞いたから名前は知らん。でも、好きな人がいるからって告白を断ったんだろう？」

「？がついて5点だね。それが優那だとも？」

「じゃあ、優那に真人にはs……いや、なんでもない。自分で判ってないなら…それは、残酷すぎると思った。優那のとっても、真人にとっても。判ってる様で少し安心したよ」

すごく怖かったです。なんか、怒りと悲しみを同じカップに入れた感じ。怖いのに申し訳ないという変な気持ちになってしまいました。

「まあ、いつかは行動するね、きっと…ね」

「ああ、そうだな」

「変な事言ったから樹、ジュースおごるね」

「はいはい」

「うううう日は暮れていきました。」

表：町の語り（後書き）

樹はB Lじゃないです

表：朝の語り

「遅刻ね、遅刻ね」

なんか食パンくわえてます。いつ時代のヒロインですか？あなたは
一応主人公（男）ですよー

「置いてかれたよ。このままじゃ風紀委員に潰されちゃうよー」

どんだけ怖いんだよ風紀委員……

「ッチ」

っあ、ギリギリ間に合ったみたいです。……怖い
ごめんなさい
神様視点に睨まないで

「お疲れだよ。ははははー」

怖かったです。真人君！これからちゃんと起きて！！

「……………」

「……………う……………」

静かですねー。あ、先生に当てられましたよ

「……………」

……やりますねー

「真人、起きてください。当てられたよ」

これは、真人の幼馴染の優那の言葉です
おや…

「酸化銀です」

「今の授業は歴史だ。おまえは、廊下に立ってろ」

ダメだったみたいです

ふだんは進行重視の先生の頬がひきつってます

キンコーンカーンコーン

終わったみたいで「……」す。また寝てます
次の授業は体育です

表：昼の語り

「さあ、体育始めるからこっちきて」

なんで、体育の教師になっただろう？
なんか、化学の教師かと思うくらいとっても細い御方なのですが

「……………」

統率力もありませんね
みんな不満そうですねよ
素直に従う生徒が一人もない教師って…
登校拒否になるんじゃないか……………」

「はいはい。今日はドッジボールです。A班は準備してください」

すごく自然に笑顔…もしかしてマズスティッ（ピーーーーー）

「樹…勝負ね！」

「避けまくった末に何とか球を手に入れた奴の台詞じゃないな」

ちよつと、僕を置いて場面展開しないで！！

寂…あー、困るじゃないですか

「ファイアーボール」

「うおおおおおおおおおおおおお」

青春ですね〜

さすがは、中学2年生ですね〜

「ぐはっ」

「よし。やったぜい」

良く見ると女子の方をちらちらと

「隙ありーーーーー」

球を拾った生徒Yの鋭い球が真人を襲う

「ぐっ…あああーーーーー」

…吹き飛んでいます

どこまで、吹き飛ぶのでしょうか

…星になりました

…彼は

と、とにかく、彼は帰ってくるでしょう
多分

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4558m/>

パラレルワールドつれづれ話

2011年10月6日19時03分発行